

2024年9月 東京地区百貨店売上高概況

2024年10月25日

I. 概況

1. 売上高総額	1,258億円余
2. 前年同月比(増減率)	-0.6%(37か月ぶりマイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭-2.4%(90.8%) : 非店頭22.3%(9.2%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	12社 22店 (2024年8月対比±0店) (前年同月比:±0店)
5. 総店舗面積	672,108㎡ (前年同月比:-9.7%)
6. 総従業員数	12,596人 (前年同月比:-8.3%)
7. 3か月移動平均値	2-4月 13.2%、3-5月 12.9%、4-6月 14.8%、 5-7月 13.7%、6-8月 10.5%、7-9月 4.8%

[参考] 2023年9月の売上高増減率は6.4%

【特徴】

9月の東京地区は、売上高(0.6%減)、入店客数(7.0%減)共に前年を下回った。長引く残暑や各社の得意客向け催事の開催時期ずれ、一部店舗の改装工事等が影響した。免税売上は為替相場が円高に振れたものの影響は限定的で、引き続き高付加価値商品が好調を維持。商品別では衣料品、雑貨、食料品の3品目が前年を下回った。具体的なアイテムの動向は以下の通り。

衣料品(0.2%減)：月前半は残暑が続くニットやコート等秋冬物の動きは鈍かったが、カットソー、ブラウス等の軽衣料が伸長。月後半以降は気温の低下に伴い、徐々にジャケットやアウター等が動く。紳士服では買い替え需要でスーツも稼働。子供服はインバウンド需要が牽引し、3か月ぶりにプラス転換。

身のまわり品(3.5%増)：ラグジュアリーブランドが売上を牽引し好調継続。インバウンド需要の他、各社企画の得意客向け催事も全体を押し上げ。アイテム別に見ると、残暑からブーツ等、防寒シューズの動きは鈍いが、サンダル、スニーカー等カジュアルは好調。

雑貨(1.9%減)：化粧品は国内ブランドが好調に推移した他、秋の新作投入で需要喚起。アイテム別に見ると、スキンケア、ベースメイク、フレグランスが動く。美術・宝飾・貴金属は微減(0.4%減)となったものの、外商が伸長。

食料品(5.4%減)：価格高騰等の影響から3か月連続でマイナス。物産展や外国展は好調で菓子は前月より1.8ポイント回復。彼岸のおはぎやお団子等、和菓子が好調。

10月足元動向：月前半の国慶節(10/1~7)で免税売上が伸長したが、改装工事の影響等もあり、前年比1.8%減(10/17時点)で推移。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.0日(前年同月比 ±0.0日)
- (2) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数16店舗)
 - ①増加した:11店、②変化なし:1店、③減少した:4店
- (3) 9月歳時記(敬老の日、彼岸)の売上(同上/有効回答数9店舗)
 - ①増加した:2店、②変化なし:7店、③減少した:0店

東京地区百貨店 売上高速報 2024年9月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	125,826,496	100.0	-0.6
紳士服・洋品	8,538,414	6.8	-0.1
婦人服・洋品	20,704,666	16.5	-0.2
子供服・洋品	1,728,116	1.4	2.7
その他衣料品	1,376,432	1.1	-2.8
衣 料 品	32,347,628	25.7	-0.2
身のまわり品	23,347,290	18.6	3.5
化粧品	12,615,920	10.0	2.0
美術・宝飾・貴金属	15,961,937	12.7	-0.4
その他雑貨	3,955,014	3.1	-17.2
雑 貨	32,532,871	25.9	-1.9
家 具	1,695,471	1.3	23.8
家 電	900,373	0.7	26.5
その他家庭用品	3,139,301	2.5	4.7
家 庭 用 品	5,735,145	4.6	12.9
生 鮮 食 品	3,150,810	2.5	-4.5
菓 子	7,182,581	5.7	-1.8
惣 菜	6,127,308	4.9	-7.1
その他食料品	8,566,831	6.8	-7.3
食 料 品	25,027,530	19.9	-5.4
食 堂 喫 茶	2,127,648	1.7	-11.8
サ ー ビ ス	1,535,929	1.2	-25.8
そ の 他	3,172,455	2.5	31.1

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	1,099,589 千円	-2.5
従 業 員 数	12,596 人	-8.3
店 舗 面 積	672,108 m ²	-9.7

営 業 日 数	30.0 日	前 年	30.0 日
---------	--------	-----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は身のまわり品、家庭用品はプラスとなった一方、衣料品、雑貨、食料品はマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が37か月連続、子供服・洋品が3か月ぶりにプラスとなったが、婦人服・洋品が37か月ぶり、美術・宝飾・貴金属が16か月ぶりにマイナスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
総額	-0.6	-	37か月ぶりマイナス
紳士服・洋品	-0.1	-0.0	8か月ぶりマイナス
婦人服・洋品	-0.2	-0.0	37か月ぶりマイナス
子供服・洋品	2.7	0.0	3か月ぶりプラス
その他衣料品	-2.8	-0.0	2か月連続マイナス
衣料品	-0.2	-0.0	36か月ぶりマイナス
身のまわり品	3.5	0.6	37か月連続プラス
化粧品	2.0	0.2	37か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	-0.4	-0.1	16か月ぶりマイナス*
その他雑貨	-17.2	-0.6	2か月ぶりマイナス*
雑貨	-1.9	-0.5	37か月ぶりマイナス
家具	23.8	0.3	2か月ぶりプラス
家電	26.5	0.1	2か月連続プラス
その他家庭用品	4.7	0.1	2か月ぶりプラス
家庭用品	12.9	0.5	2か月ぶりプラス
生鮮食品	-4.5	-0.1	6か月連続マイナス*
菓子	-1.8	-0.1	3か月連続マイナス*
惣菜	-7.1	-0.4	3か月連続マイナス*
その他食料品	-7.3	-0.5	6か月連続マイナス*
食料品	-5.4	-1.1	3か月連続マイナス
食堂喫茶	-11.8	-0.2	3か月連続マイナス
サービス	-25.8	-0.4	2か月連続マイナス
その他	31.1	0.6	4か月連続プラス
商品券	-2.5	-0.0	7か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した

お問い合わせは、日本百貨店協会 橘・長柴 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>